

第74回(公社)全日本鍼灸学会学術大会演題募集要項

一般演題(口演発表、ポスター発表、英語発表)：正会員のみ

学術大会では、一般演題として3つの発表方法を企画しています。

- ・口演発表：PCによる口頭発表です。
- ・ポスター発表：ポスター掲示による口頭発表です。
- ・英語発表：科学の場における共通言語である英語によるポスター発表のセッションを企画しました。多くの先生方の議論の場となり、それが世界に通用する日本の鍼灸学の構築に繋がればと考えています。

学生発表：学生会員（応募時に鍼灸又は医学の教育機関に学籍を有する者）

(公社)全日本鍼灸学会では、卒前教育支援の一環として、鍼灸師養成施設の学生の学術への意欲を喚起すると共に生涯学習の必要性・重要性を知っていただくために、学生発表を企画しました。卒業研究を是非学会の場で発表して下さい。なお、発表に際しては指導教員並びに所属している学校の許可を得てください。(大学院・教員養成課程の学生は除きます)

演題応募の区分は、一般演題の発表形式は、学会一任とさせていただきます。また、応募は、「学会一任(口演・ポスター)」、「英語発表」、「学生発表」の3区分となります。

1-1. 一般演題応募資格

- 1) 筆頭演者は、(公社)全日本鍼灸学会 正会員 に限ります(筆頭演者としての応募は1人1演題に限定させていただきます)。
- 2) 共同発表者は、正会員、学生会員あるいは第74回学術大会会員であることが必須です。
- 3) 筆頭演者ならびに共同発表者とも正会員は令和6年度正会員年会費納入済みの会員であり、年会費を納入していない会員は演題応募ができません。正会員未登録の方は(公社)全日本鍼灸学会事務局までお問い合わせ下さい。
- 4) 学生会員は一般演題への応募はできません。ただし、はり師、きゅう師の免許を有している学生会員で、正会員に登録変更した場合のみ演題を応募することができます。
- 5) 第74回学術大会会員について

非会員で共同発表者として名を連ねる場合、研究の指導的立場の者に限って学術研究部長の承認を経て「第74回学術大会会員」として認められる場合があります。

第74回学術大会会員の詳細及び申請方法については、(公社)全日本鍼灸学会ホームページ内の「オンライン演題登録システム」の第74回学術大会会員をご参照ください。

演題応募時まで上記の資格要件をすべて満たしておいて下さい。資格要件を満たしていない演題は受け付けられませんので十分ご留意下さい。また、演題応募後に資格要件を満たしていないことが判明した場合、演題受付を取り消す場合があります。

1-2. 学生発表応募資格

- 1) 筆頭演者は、(公社)全日本鍼灸学会 学生会員(学生会員資格：令和6年度に鍼灸又は医学の教育機関に学籍を有する者)に限ります。(大学院、教員養成課程の学生は除きます)
- 2) 指導者(正会員)が、共同演者として連名にあることが必須です。
- 3) 共同発表者は、正会員、学生会員あるいは第74回学術大会会員であることが必須です。

4) 第74回学術大会会員について：一般演題応募資格を参照して下さい。

1-3. 演題応募に際しての倫理面・利益相反・二重発表に関する注意

演題内容は倫理面について十分配慮されたものであり、また利益相反の有無についての申告が義務となります。

また、他の学会で既に同一内容を発表されている場合は二重発表となるため、採択ができないことがあります。ご注意ください。

なお、(公社)全日本鍼灸学会の支部学術集会において一般演題として発表した研究を発表することは可能です。

2. 応募期間

令和6年11月1日(金)より令和7年1月14日(火)まで

演題応募は令和7年1月14日(火)にて締め切ります。締め切り日直前は回線が混雑しますので、時間的余裕をもってご応募下さい。また、事務処理の都合上、締切日以降の演題登録ならびに修正は受け付けませんのでご了承下さい。

3. 応募方法

『オンライン演題登録システム』を利用

「学術大会ホームページ」の「演題登録」から応募して下さい。「演題登録」以外の応募は受け付けません。

【投稿受理通知】

演題応募が完了し、UMINで投稿が受理されると、内容確認のメールが応募した本人のアドレス宛に送信されます。査読結果や採択通知等は全て登録いただいたアドレス宛に送りますので、間違いがないように確認をしてください。なお、システムより自動送信となります。Gmailで登録された場合にサーバーの都合で通知が届かない事例が報告されています。ご注意下さい。

4. 演題応募に際して

応募いただく演題の内容につきましては、鍼灸医学に関する研究内容といたします。また、演題内容は倫理面についても十分配慮されたものをお願いします。また利益相反の申告が発表者の義務となります。

5. 発表形式

正会員対象の一般演題は、学会一任（口演・ポスター）、英語発表です。発表形式は、学会に一任していただきます。

学生会員対象の発表は、学生発表のみです。演題登録の際は「学生発表」をお選びください。

なお、発表時間などに関する詳細は、抄録の採択後にプログラムを決定し、メール等で登録者にお伝えいたします。

6. 発表区分

演題登録フォームから希望する発表区分を1つ選んで下さい。

基礎 (動物) 基礎 (ヒト)	<ul style="list-style-type: none"> 1 体性神経 2 自律神経 3 中枢神経 4 消化・吸収 5 循環 (末梢循環、リンパ系を含む) 6 代謝・内分泌 7 筋・骨格 (トリガーポイントを含む) 8 泌尿生殖器 (腎臓、膀胱、子宮、卵巣など) 9 感覚器 10 鎮痛 11 生体防御 (免疫、炎症など) 12 その他
臨床	<ul style="list-style-type: none"> 13 末梢神経系1 (体性神経系) 14 末梢神経系2 (自律神経系) 15 中枢神経系 16 精神神経系 (心の病を含む) 17 内臓器系1 (消化器系、呼吸器系) 18 内臓器系2 (循環器系、末梢循環を含む) 19 内臓器系3 (代謝・内分泌系) 20 内臓器系4 (泌尿器系) 21 内臓器系5 (産婦人科系) 22 運動器系1 (頸部、上肢領域) 23 運動器系2 (体幹、腰部下肢領域) 24 運動器系3 (関節) 25 運動器系4 (筋、トリガーポイントなどを含む) 26 運動器系5 (スポーツ) 27 感覚器系 (皮膚科、耳鼻科、眼科領域を含む) 28 アレルギー・膠原病 (アトピー性皮膚炎、RAを含む) 29 老年疾患 (認知症、介護を含む) 30 鎮痛、疼痛管理 (ペインクリニック、癌性疼痛を含む) 31 生体防御 (免疫、炎症など) 32 治療環境 (感染、感染予防、過誤、副作用など) 33 その他
調査	<ul style="list-style-type: none"> 34 診察方法・手技 35 患者動態、意識調査 36 環境衛生 (感染、感染予防、過誤、副作用など) 37 医療情報 (ネットワーク、データベース、電子カルテなど) 38 医療経済 39 その他
東洋医学概論・古典	<ul style="list-style-type: none"> 40 東洋医学史 (医学史を含む) 41 古典文献 42 理論 (臓腑経絡、病因など) 43 診察、治療 (四診、弁証、配穴、手技など) 44 経絡経穴 (取穴法、骨度法、経絡現象など) 45 その他
教育	<ul style="list-style-type: none"> 46 教育技法 47 授業評価 48 臨床・実技評価 49 マルチメディア 50 その他
その他	<ul style="list-style-type: none"> 51 その他 (上記のいずれにもあてはまらないもの)

7. 抄録原稿作成上の注意事項

- 1) 文字はJIS第1、第2水準で規定されている文字を使用して下さい（経穴名等で特殊文字を使用しなければならない場合は所定の入力方式に従って下さい）。
- 2) 抄録は【目的】、【方法】、【結果】、【考察】、【結語】に分けて記載し、これ以外の語句の使用は避けて下さい。なお、症例報告では【方法】の変わりに【症例】、【現病歴】、【所見】に、【結果】の変わりに【治療・経過】などに変えて作成することも可能です。文字数については、750字～800字以内に収めて下さい。
- 3) キーワード（5語以内）を記載して下さい。キーワードは演題内容を正確に代表するもので、原則として演題名・要旨に含まれる語句から選んで下さい。また、なるべく短い用語を使用し、類似した用語の並列は避けて下さい。
- 4) 本文中での句読点は全角の「、」「。」をご使用下さい。その他の英数文字は半角英数文字を利用して下さい。
- 5) 発表演者は、筆頭演者の所で登録してください。
- 6) 筆頭演者の所属機関は、「〇〇大学、〇〇教室」まで正確に記載して下さい。
- 7) 勤務先を連絡先にされる場合は、住所の中に必ず所属機関などを記載して下さい。

（公社）全日本鍼灸学会、学術研究部では、学会ホームページ（演題登録システム）に抄録作成・ポスター作成・スライド作成のポイントを公開しています。よろしければご参考ください。

*抄録審査のポイントと採択基準

（公社）全日本鍼灸学会では、学術大会の一般演題としてふさわしく、質の高い、わかりやすい抄録集を作成するために、抄録審査を行っています。以下の点を基準に審査を行っており、この基準に満たさない場合は修正もしくは不採択となります。

そのため、抄録作成に際しては必ず以下の点に注意して作成し、次ページにある「抄録投稿における自己チェックリスト」（審査に用いるチェック用紙を一部改変）を用いて、基準を満たしているかを確認してから、抄録の投稿をして下さい。

○抄録審査のポイント

1. 発表は原則として鍼灸分野に関するものとする。ただし、鍼灸分野と直接的に関係ない場合は、その関わり合いが抄録内で明確にされていればよい。
2. 構造化抄録（【目的】、【方法】、【結果】、【考察】、【結語】の形式）で記載されている。ただし、症例報告の【方法】は、【症例】、【現病歴】、【所見】等、【結果】は【治療・経過】等に変更することが出来る。なお、【考察・結語】とまとめて記載してもよい。
3. 目的は、発表内容（研究結果）で明らかにされる目的が記載されている。（発表内容で明らかにされない目的は記載しない）
4. 方法は、対象や人数（症例数、匹数）、研究方法、評価方法、解析方法が記載されている。症例報告では、病歴や所見、病態、治療方法が明確に記載されている。
5. 結果は、数値や有意差検定の結果等で具体的にわかりやすく記載されている。（結果には、自分の考え（考察）は記載しない）

6. 考察は、結果に対する自分の考えが論理的に記載されている。(結果以上に推論を重ねた考察は記載しない)
7. 結語は、発表のポイントとなる事項について端的に記載されている。
8. キーワードは、発表のポイントとなる用語が記載されている。
9. 倫理的に配慮されている。必要であれば倫理委員会の承認番号を記載する。(特に人を対象とした研究はヘルシンキ宣言等の倫理的基準を満たしている必要がある)。また、動物を用いた研究は、各施設の動物実験委員会等の承認を得ている必要がある。
10. 字数(750字以上 800字以内である)が守られている。
11. 共同研究者を含めて演者の全てが鍼灸学会の会員である。

○その他の注意事項

12. 度量衡の単位は、mm、cm、ml、dl、l、ng、 μ g、mg、g、kgなどの国際単位系を用いる。
13. 鍼の長さ・太さ・材質を記載する場合は、学会の規定に従って明記する。((公社)全日本鍼灸学会. 医療用鍼の品質規格—毫鍼の鍼体径と鍼体長—.全日鍼灸会誌.1986;36(4): 305-7) 例) 銀鍼の寸3の2番、40ミリ・20号鍼、銀鍼
14. 経穴名は、『WHO/WPRO 標準経穴部位—日本語公式版—』ならびに『WHO STANDARD ACUPUNCTURE POINT LOCATIONS IN THE WESTERN PACIFIC REGION』、ローマ字の表記は、『STANDARD ACUPUNCTURE NOMENCLATURE Second Edition』ならびに『標準経穴学』の表記方法を基準とする。例:足三里 (ST36)

*なお、誤字脱字に関しては自己責任となるために必ずダブルチェック(2人以上で確認すること)を心がけて下さい。また、学会ホームページ (<http://www.jsam.jp/pdflib/syouroku.pdf>) に「抄録作成のポイント」を掲載していますので、ご活用下さい。

○抄録投稿における自己チェックリスト

* 抄録を応募する前に、必ず以下の項目をチェックしてから応募して下さい。

✓	項 目
	鍼灸分野に関する研究である(鍼灸分野の直接的な研究でない場合は、鍼灸分野との関わり合いを明確に記載されている)。
	発表形式に即した構造化抄録である。 ・一般発表：【目的】、【方法】、【結果】、【考察】、【結語】 ・症例報告：【目的】、【症例】、【現病歴】、【所見】、【治療・経過】、【考察】、【結語】
	発表内容(結果)に即した目的である。
	症例数や対象人数(匹)が記載されている。
	・一般発表：【方法】に、研究方法、評価方法、解析方法が記載されている。 ・症例報告：【方法】に、病歴、所見、病態、治療方法が明確に記載されている。

結果が数値等で示せるものはなるべく具体的に示す（具体的な数値を示せない場合は統計結果でも構わない）。結果に自分の意見や考えを記載していない。
結果を飛躍せず論理的に考察し、それを文章化できている。
発表のポイントとなる抄録文章内のキーワードを抜粋できている。
字数制限が守られている(750字以上800字以内である)。
句読点は全角の「、」「。」、その他の英数字は半角英数文字を使用した。
誤字脱字を確認した。
共同研究者が全て学会の会員である。
研究内容に倫理的な問題がない。

○文責：(公社)全日本鍼灸学会学術研究部

○問い合わせ先：gakujutu@jsam.jp

8. 注意事項

演題の登録番号とパスワードは必ず控えておいて下さい。

9. 演題登録に関する問い合わせ先

演題登録に関するお問い合わせは学術研究部までメールにてご相談下さい。

Email: gakujutu@jsam.jp 担当：学術部 谷口博志（東京有明大学）、今井賢治（帝京平成大学）

10. 演題採否

演題の採否および発表形式は大会会頭が決定し、令和7年2月下旬から3月中旬頃までにメール及びホームページで公表します（演題登録時のメールアドレスは、3月以降も使用するものをお願いします）。

11. 著作権について

抄録の著作権は、学会誌投稿規定の投稿論文に準じて学会に委譲していただきますので、ご了承下さい。